



「しずおか火のある暮らし応援団」
静岡森林エネルギー研究会／酒井章博さん

※火のある暮らしにご興味のある方は、まずは伝衛堂まで御連絡を！
ストーブ屋 「伝衛堂」：浜松市南区飯田町 740
TEL / 053-467-0751

今回はいつもお世話になっているストーブ屋の伝衛堂さんにご紹介頂き、「しずおか火のある暮らし応援団」が行っている薪割りイベントにお邪魔し、薪割り体験をしてきました。かつての暮らしのようにも思える火のある暮らしが、今の暮らしに何をもたらすのか、見つけていきたいと思っています。

暮らしの キノリグサ

日常では触れることの少ない作業や体験を通し、現代に生きる私たちが忘れがちな、コトやモノの中にある豊かさを見つけ、ココラボ鈴木がお伝えします。

2 「薪割り体験」

しずおか火のある暮らし応援団は、『火のある暮らしを楽しむ』をコンセプトに2008年から活動を開始し、今回のような薪割りイベントを静岡県西部を中心に毎月行なっている。このイベントを通して、火のある暮らしの魅力を伝えると共に、薪の供給はもちろん、山に手を入れることで森林の保全にも携わっている。主催者である酒井さんは、木質バイオマスなどの木の利用開発を積極的に取り組んでいる。

美味しさを呼ぶ、火のある暮らし。

早朝6時、藤枝に集合し、今回薪割りを行なう春野町の山へ向かう。その車中では、酒井さんが山の事、木の事、日本のかつての暮らしの事などを熱心に話してくれた。木の利用が減り、山に手が入らなくなったために今、山が荒れていると言う。確かに車中から見える林は、早朝のせいかシンとする神聖な空気がする一方、うっそうと茂り薄気味悪い。改めて、化石燃料に頼り過ぎる暮らしを考え直さなければいけないと肌で感じた。

薪作りを通して、一緒に汗を流したり、ご飯を作ったり、美味しいものを食べたり、自然の空気を吸ったり、全く知らない人たちが、火のある暮らしをすることで出会い、共に次の年の冬支度をする。なんだかその繋がりだけで暖かいような気がする。スイッチひとつで得られる快適というのは、実に便利だが、このような体験を味わえないのは、もったいないと感じた。自分の手で育んでいく暮らしの楽しさを知る事が出来る体験でした。



1：午前中は山主から許可を得た木を伐りだし、細かな枝を切っていく作業。なかなか重労働！
2：お昼には奥様たちによるダッチオープン料理を、皆でおいしく頂きました♪
3：一家族の分け前。今回は伐り出しから行ったので少なめですが、薪割りのみ場合は、軽トラック一杯分くらいだそう。
4：伐りだしてきた木をチェーンソーで玉切りし、斧で一本一本割っていく。

